

習志野市青少年訪問団がタスカルーサを訪れました 派遣生徒がタスカルーサをエンジョイ！

山口 大二郎（習志野市青少年訪問団団長）

タスカルーサの集合場所ジェミソン・マンションでは生徒たちが日本の小旗を振りながら我々のバスに駆け寄ってくるではないですか。日本からの友人を今か今かと待ててくれたのでしょ。皆と感動の再会です。

今回の派遣生徒のホームステイ先は6月に来日したタスカルーサの生徒宅でした。タスカルーサ生が日本で2週間滞在した際は、市内4校の学校訪問、2日間の富士吉田研修やパーティーなどをプログラムに入れ、生徒同士が出来るだけコミュニケーションが図れるように企画しました。

16歳から自動車の免許が取れるアメリカでは、自分の車で学校へ通っている生徒もいます。昼間プログラムを終えるとホストの家庭では生徒たちが主役です。

友人たち同士でお互いに連絡し合い、一緒にホームパーティーを開いたり、土日は郊外でアクティビティを体験したりしました。学校は夏休みでしたが生徒たちは自分の学校を案内してくれ、チェアリーダーの歓迎を受けたり、一緒に特別授業を受けたりしました。派遣生徒たちは毎晩の活躍が続いて寝不足状態で、さすがに昼間のバスの中ではお休みで

した。

交通博物館ではクイズが出され、見学しながらその答えを一緒に探す“スキャベンジャー・ハント”が盛り上がりました。そこではリサさんよりサプライズ賞品のプレゼントがありました。交通局が実際に道路標識として使っているグリーン・ボードに名前が書かれたものを、一人ずつ名前を呼んで手渡してくれたのです。

タスカルーサ・キャリア・テクノロジー・アカデミーの見学では皆驚きと羨望のまなざしで一杯でした。そこは専門学校の設備と教師陣をそろえた教育施設で、工業、農業、コンピューター、看護・理容施設、アニメーション、テレビ放送などの分野の学習ができます。学生たちは選択科目として授業や実習講座を採り将来の進路に役立てます。

郊外研修ではバーミングハムのバルカン公園、ハンツビルの宇宙ロケットセンター、フリント川でのカヌー川下りなどの野外アドベンチャーをエンジョイ。生徒たちにとってはまさに想像を超えた充実のタスカルーサ2週間でした。



タスカルーサ・キャリア・テクノロジー・アカデミー
7月28日



ノースリッジ高校 7月29日